

# へドロ川 野菜で浄化

## 足立と八潮の住民ら

# 「空心菜」栽培し試す

足立区と埼玉県八潮市の境を流れるへドロ川の浄化をめざし、区民が今年もEM菌(有用微生物群)を活用した「ジャブジャブ大作戦」を展開する。NPO主導の昨年と異なり、地元町会・自治会が前面に立つ。住民が発案した野菜の空心菜を使ったへドロ川の吸収効果を試すほか、対岸の八潮市民も加わる。秋までの活動を通じ、身近な川への意識を高めるのが狙いだ。

## EM菌も活用

へドロ川近くの六木住区センターに3日夜、区民ら89人が集まり、準備状況や活動計画を報告した。中川と綾瀬川を結ぶへドロ川は全長約2キロ、幅10メートル前後の河川だ。葛西用水が流れ込むのに、両端の水門が閉ざされているためへドロ川がたまり、悪臭を放っていた。

環境問題に取り組むNPO、足立グリーンプロジェクトなどが生ごみリサイクルに使ったEM菌による浄化を思い立ち、昨年6月、地域住民に呼びかけた。区まちづくり公社が設けた公益信託「おだちまちづくりトラスト」の助成を受け、活動資金に充てた。

浄化の武器はEM団子だ。EM菌を米ぬかにつけて増殖させ、赤土に交ぜて丸める。この団子を川に投げ、微生物にへドロ川を分解してもらう。約400人が参加し、7月9日に5回、投げ入れたところ、へドロ川の厚さが10センチほど減ったという。足立グリーンプロジェクト代表の平田裕之さん(31)は「団子を投げたら効果を確認できたから川に足を運び、のぞき込む。それだけでも川への意識が変わります」。六木小学校と十三中学の子もたちは今年も、環境学習としてEM団子をつくり川に投げる。住民からも様々なアイデアが出た。その一つがいかだを浮かべ空心菜を栽培する案。空心菜はリンや窒素の吸収力に優れ、中華料理などにも登場するが、十三中学の生徒の保護者でつくる「十三の会」が提案した。

メンバーは、へドロ川で育った空心菜が食用になれば、酒のつまみにするのを楽しみにしている。八潮市の住民も「八潮の川をきれいにする会」を結成し、活動に参加する。NPOを研究している独協大(埼玉県草加市)の学生も加わった。第一回のEM団子作りは13日午前10時から、足立区神明1丁目の小溜井排水機場で。27日、排水機場と平成泉橋から川に投げ入れる。

飛び入り参加可。問い合わせは足立グリーンプロジェクト(070・5204・7559、http://jabjab.greenproject.net)。

集会でこれまでの活動を報告する区民ら。八潮市の住民も出席した13日、足立区六木3丁目。



「EM菌も活用」

自動車保険は、想像以上に安くなる。

インターネットから、さらに...

**3,000円** 割引